
姫と2人の王子様

瀬戸川 琉彩

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

姫と2人の王子様

【Nコード】

N9995P

【作者名】

瀬戸川 琉彩

【あらすじ】

いきなり、2人のイケメン兄妹と同居することになった、胡桃。最初は嫌だったが――。あなたは、どっちが好みですか??

??1??

「胡桃、食べすぎだよ!？」

「いーの♪美味しいもん。優ちゃんも食べる?？」

優ちゃんこと、中島優子^{ナカジマユウコ}にあたしは食べてた、チョコパンを差し出した。

昼休み、あたしは弁当を食べた後に甘いものを食べるのが大好きなんだ♪

「いらない。太っちゃうし」

太っちゃうって…。

優ちゃん、太っても全然大丈夫なくらい、細いじゃん。

それに、背も高いし、顔も綺麗。

背が低くてデブくてブスなあたしとは大違い。

「いいなあ…優ちゃんは」

ぼそつと言うと、優ちゃんはそれに気づき、

「胡桃は可愛いよ?？私なんかより何十倍も!!」

「お世辞はいいよお」

いつも、あたしが「いいなあ」とか「ずるい」とか言うのと、そう言うってくれるけど…あり得ないし。

優ちゃんより何十倍も可愛いはずがない!!

「お世辞じゃないってば!! 胡桃、自身持ちな♪」

優ちゃんはいいな、本当に。

自信が持てるくらいスリムで綺麗なんだから。

「あ!!! 新条先輩だっ」

優ちゃんが、廊下の方を向いて言う。

それと同時に、教室の中が騒がしくなった。

新条先輩は3年の先輩で、この高校一のモテ男らしい。^{シンジヨウ}
やさしい感じの先輩だけど、実はそうじゃないとか…。

「私たちのクラスの所に来るとか珍しー。胡桃、ちょっと行ってくるねー!」

「え、うん」

優ちゃんは新条先輩が好きッて言ってたよなあ…。

気づけば、優ちゃんはもう新条先輩の所に行っていた。

新条先輩も大変だな。

気づけば、もう少して昼休みが終わる。

優ちゃん遅おーい。

結局、友情より恋愛だよね…。

1人でいると、新条先輩と目が合った。

「篠原^{シノハラ}さん」

そして、そう口にした。

…って。

え!?! あたしの事!?!

「ちょっといいかな」

ええー…。

何なのー!?!?

廊下からあたしを呼ぶ新条先輩は、ものすごく笑顔で、断るわけにはいかなかった。

「…はい」

あたしは急いで廊下の方に行く。

…うう。

みんなの視線が痛い!!

みーんな、あたしをにらんでる。

その中に…優ちゃんもいた。

「ついてきて」

「……」

あたしは黙って新条先輩の後について行った。

「何アレ…」

「ムカつくんだけど」

女子の声が聞こえる。

あたし、何にもしてないのにい。

???2???

新条先輩のあとについて行くと、屋上についた。
何で屋上??

もしかしてっ、告白とか!??

どうしょお??。

どうやって断ればいいの!??

その前に、優ちゃんと仲悪くなっちゃいそう…。

「ごめんね、急に。もうちょっとで、理央が来ると言うから…」

「あっ、はい」

理央って誰だろ…?

そんな事を思っていると、勢いよくドアが開いて、屋上に人が入ってきた。

「あーっ!!」

理央ってこの人かっ!!

「何だよ」

「あ、ごめんなさい…」

フジモリリオ
藤盛理央!!

あたし達の学年で1番もててるって優ちゃんが言ってたあ。

「で、何? 隼斗」

新条先輩に向かって、藤盛君は言った。

ため口だし…っていうか、新条先輩の下の名前って隼斗ハヤトっていうんだあ。

「ごめんね、2人とも。急に呼び出したりして」

「そうだよ。早く済ませろよ」

何その上から目線!!

新条先輩は2つも年が上だよ!??

…そんなこと言えるわけなく、あたしは黙って2人の言い合いを見た。

「まあ、聞いてよ、理央」

「分かったよ」

新条先輩が言って、言い合いが終了した。

「今日から、3人で同じ家に住むことになったんだ」

これが、全く関係がなかった2人のイケメンとの生活の始まりだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9995p/>

姫と2人の王子様

2011年1月13日06時24分発行